

合唱指導における「ウォームアップ」に関する研究

教育デザインコース 音楽領域

杉尾 隆輔

1. はじめに

合唱において「ウォームアップ」は非常に重要な活動である。Vick Jr. (2003) は合唱練習の最初に行う「ウォームアップ」の重要性について、その有効性が練習の導入だけでなく、様々な点で有用であることを指摘している。

日本の学校教育において合唱活動は、様々な場面で多用されている。一方で、我が国の多くの合唱の授業や合唱団の「ウォームアップ」は、単純に声を出す準備運動的な発声運動や体操にとどまっている場合が多い。ゆえに、これらの合唱における「ウォームアップ」活動を再検討し、優れた合唱「ウォームアップ」を行う方法を提案することができれば、合唱「ウォームアップ」だけでなく、合唱活動そのものをより豊かにすることができるのではないかと考えた。

以上を背景に、本研究の目的は、合唱における「ウォームアップ」の重要性を再提示するとともに、その具体的な活動内容や教材を研究、有効性を検証し、その方法を特に教育現場での実践的な内容として提案しようとするものである。

なお本研究においては、すでに日本で「準備運動」のような意味で一般的に用いられている「ウォーミングアップ」との違いを明確にするため、諸外国の参考文献に多く見られる“Warm-up”や“Choral Warm-up”といった表記にならい、それをカタカナで表記した「ウォームアップ」という表現を用いて差別化を図るものとする。

2. 研究方法

- ①諸外国の「ウォームアップ」に関する先行研究・資料・作品の調査と分析
- ②先行研究を基にした、日本の合唱「ウォームアップ」の観察・分析
- ③「ウォームアップ」の実践と官能調査による効果測定

3. 結果

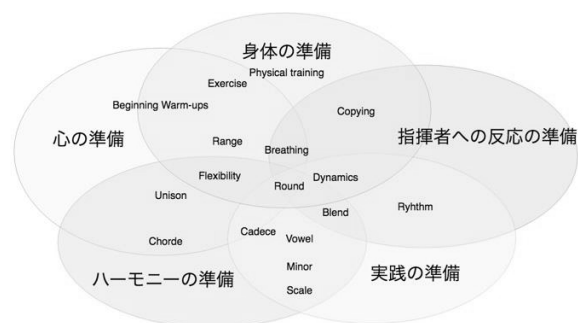
3-1. 日本の「ウォームアップ」の課題

- ①「ウォームアップ」の目的が偏っている
- ②「ウォームアップ」の目的と内容との繋がりが明確でない
- ③目的を達成するための「ウォームアップ」のバリエーションが少ない

の三点になるのではないかと考えた。

3-2. 「ウォームアップ」の目的による分類

先行研究における「ウォームアップ」の活動内容を、筆者がその目的ごとに大きく5つの領域に分類した。



4. 考察

3-2. で提示した「ウォームアップ」の5つの分類は筆者が文献をもとに大まかに分類したものである。そのため、今後の研究で「ウォームアップ」を分類する仕方に関して、有用な研究や文献がないか調べるか、もしくは上記の分類の仕方を、先行文献を基に理論的に裏打ちする必要がある。

また、分類した「ウォームアップ」の有効性を検証する必要がある。その方法として、演奏の映像を複数の合唱指揮者に視聴、項目によって点数化させる官能調査を検討している。